

2020年3月期 決算ご説明資料

2020年5月25日
八千代工業株式会社

- **決算説明**
- **生産体質強化の方向性**
- **新型コロナウイルスへの対応について**

■ 2020年3月期 連結決算

2020年3月期（12カ月間）連結業績（IFRS）

継続事業	2019年3月期 (実績)	2020年3月期 (実績)	前期比 (増減率)
売上収益 (自動車部品分野)	1,612億円	1,546億円	-65億円 (-4.1%)
営業利益 (対売上収益比率)	7.0億円 (0.4%)	9.9億円 (0.6%)	+2.9億円 (+41.4%)
税引前当期利益 (対売上収益比率)	9.3億円 (0.6%)	8.1億円 (0.5%)	-1.2億円 (-13.1%)
親会社の所有者に 帰属する当期利益 (対売上収益比率)	-43.3億円 (-2.7%)	-31.7億円 (-2.0%)	+11.7億円 (-%)
為替レート (USドル)	111円	109円	2円 円高

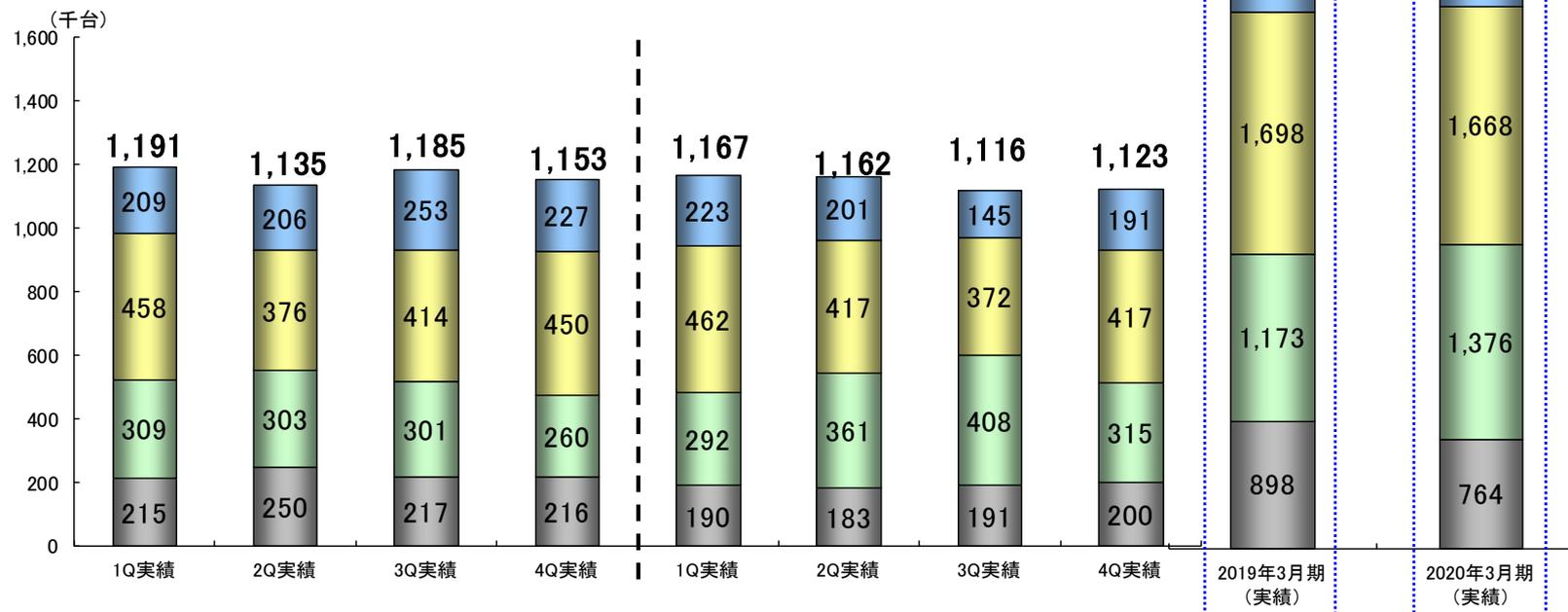
非継続事業	2019年3月期 (実績)	2020年3月期 (実績)	前期比 (増減率)
売上収益 (自動車部品分野)	-	-	-
営業利益 (対売上収益比率)	8.2億円	-	-8.2億円
税引前当期利益 (対売上収益比率)	8.2億円	-	-8.2億円
親会社の所有者に 帰属する当期利益 (対売上収益比率)	8.2億円	-	-8.2億円

2020年3月期（12カ月間）燃料タンク概況

	2019年3月期 (実績)	2020年3月期 (実績)	前期比 (増減率)
生産台数合計	4,664千台	4,568千台	-96千台 (-2.1%)
日本	895千台	760千台	-135千台 (-15.1%)
米州	1,698千台	1,668千台	-30千台 (-1.7%)
中国	1,173千台	1,376千台	+203千台 (+17.3%)
アジア	898千台	764千台	-134千台 (-15.0%)
売上収益	395億円	419億円	+24億円 (+6.2%)
内、為替影響	-	-13億円	+37億円 (+9.4%)

← 実質的な売上増

■日本 ■米州 ■中国 ■アジア



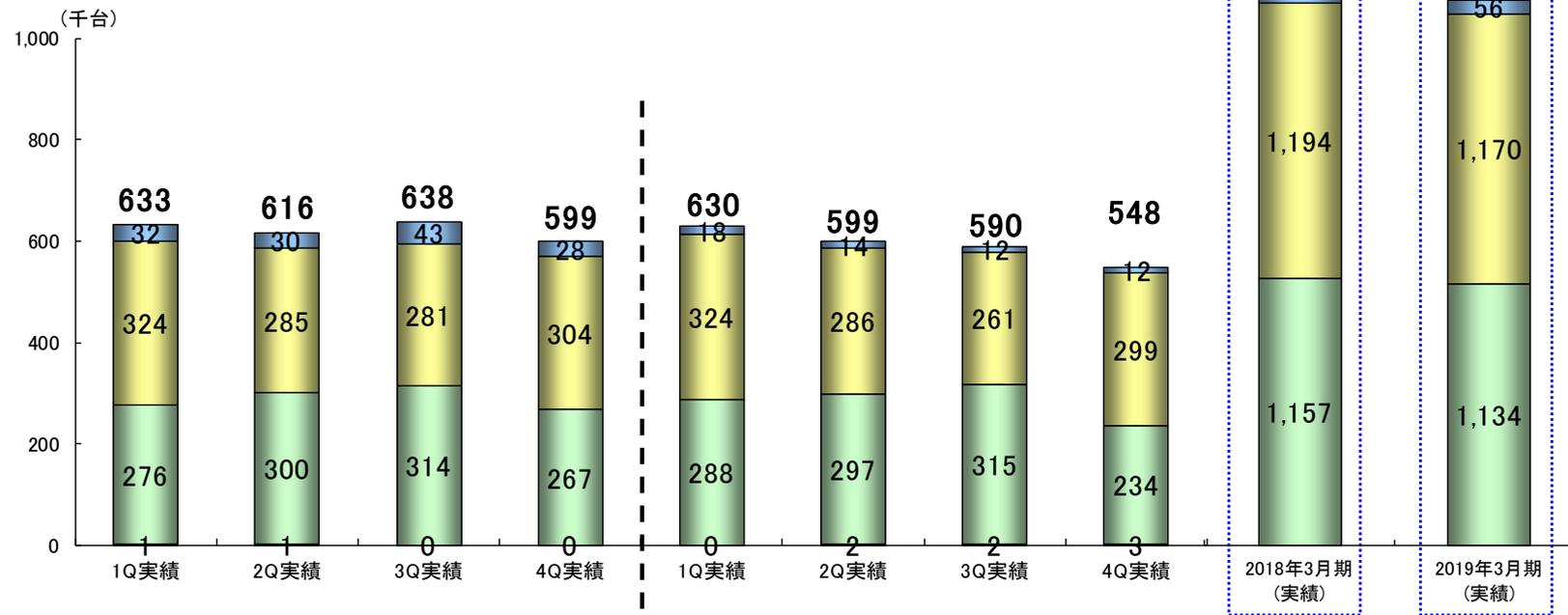
-96千台
(-2.1%)

2020年3月期（12カ月間）サンプル概況

	2019年3月期 (実績)	2020年3月期 (実績)	前期比 (増減率)
生産台数合計	2,486千台	2,367千台	-119千台 (-4.8%)
日本	133千台	56千台	-77千台 (-58.4%)
米州	1,194千台	1,170千台	-24千台 (-2.0%)
中国	1,157千台	1,134千台	-23千台 (-2.0%)
アジア	2千台	7千台	+5千台 (+272.0%)
売上収益	483億円	420億円	-63億円 (-13.0%)
内、為替影響	-	-18億円	-45億円 (-9.4%)

← 実質的な売上減

■日本 ■米州 ■中国 ■アジア

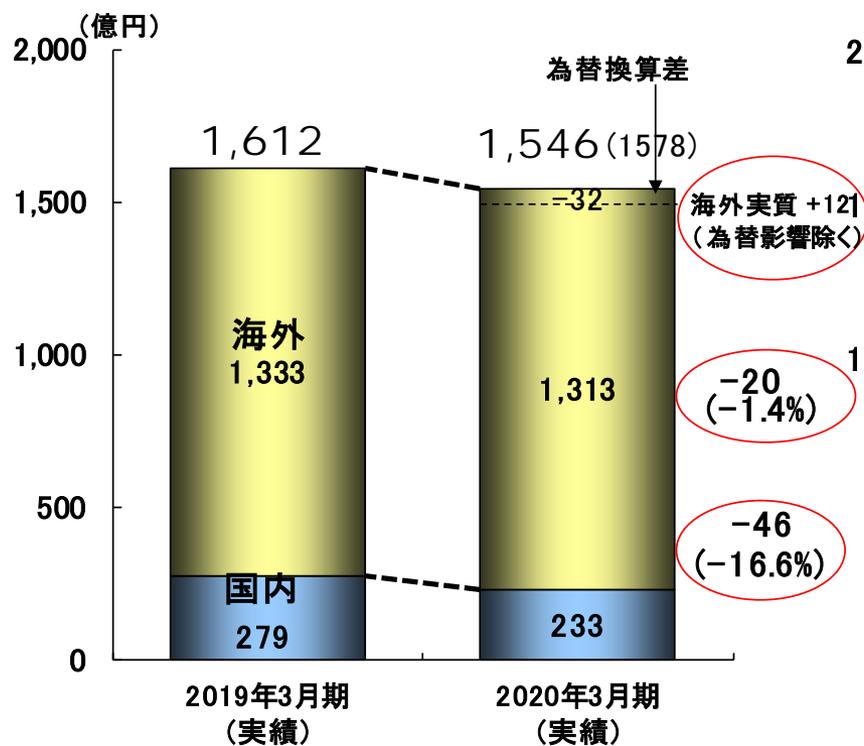


-119千台
(-4.8%)

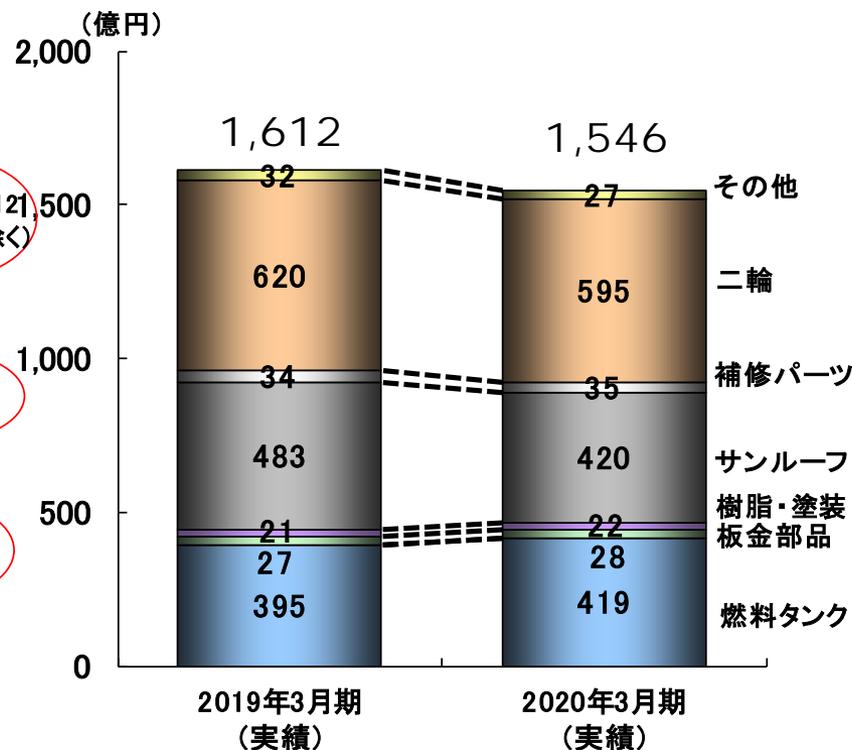
2020年3月期（12カ月間）製品別売上概況

	2019年3月期 (実績)	2020年3月期 (実績)	前期比 (増減率)
売上収益	1,612億円	1,546億円	-65億円 (-4.1%)

国内／海外区分

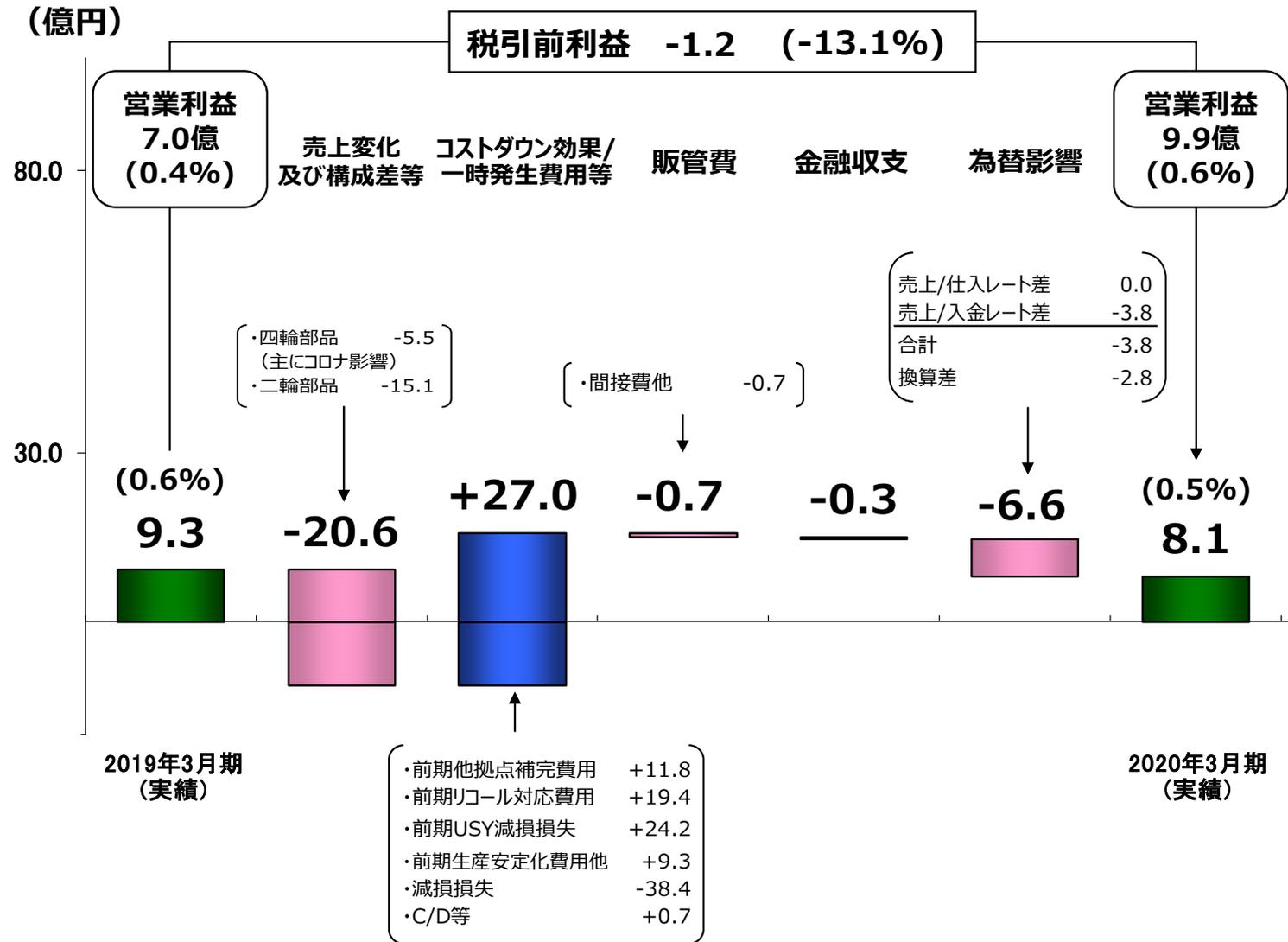


部品別区分



2020年3月期（12カ月間）連結税引前利益増減要因

売上収益 1,612 — 増減 -34 — 為替換算影響 -32 — 1,546



2020年3月期（12カ月間）所在地別セグメント情報

【日本】

売上収益	-46
・四輪部品売上減	-41
・二輪部品売上減	-5
税引前利益	-59.1
・売上変化及び機種構成差	-19.5
・開発費減他	+0.3
・為替影響	-2.8
・金融収支	+0.1
・減損損失	-37.2

【米州】

売上収益	-31
・部品売上減	-22
・為替影響	-9
税引前利益	+60.2
・売上変化及び機種構成差	-5.6
・前期他拠点補充費用	+10.9
・前期リコール対応費用	+18.6
・前期USY減損損失	+24.2
・前期生産安定化費用	+10.7
・償却費減	+1.2
・販管費増	-0.4
・為替影響	+1.0
・金融収支	-0.4

【中国】

売上収益	+36
・部品売上増	+59
・為替影響	-23
税引前利益	+20
・売上変化及び機種構成差	+21.5
・コストダウン他	+0.7
・前期新技術導入対応等	+2.3
・償却費増	-1.7
・前期リコール対応費用	+0.8
・為替影響	-3.6

【アジア】

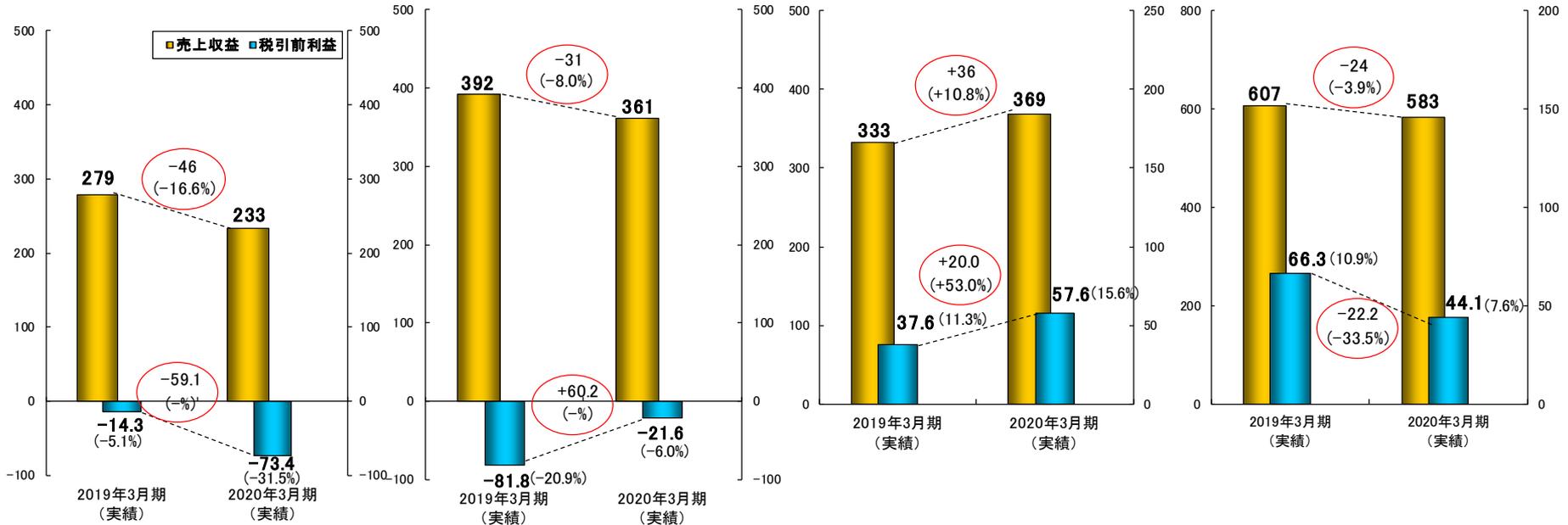
売上収益	-24
・二輪部品売上減	-17
・四輪部品売上減	-7
税引前利益	-22.2
・売上変化及び機種構成差	-17.0
・販管費増	-0.9
・為替影響	-1.2
・減損損失	-1.2
・償却費増	-1.9

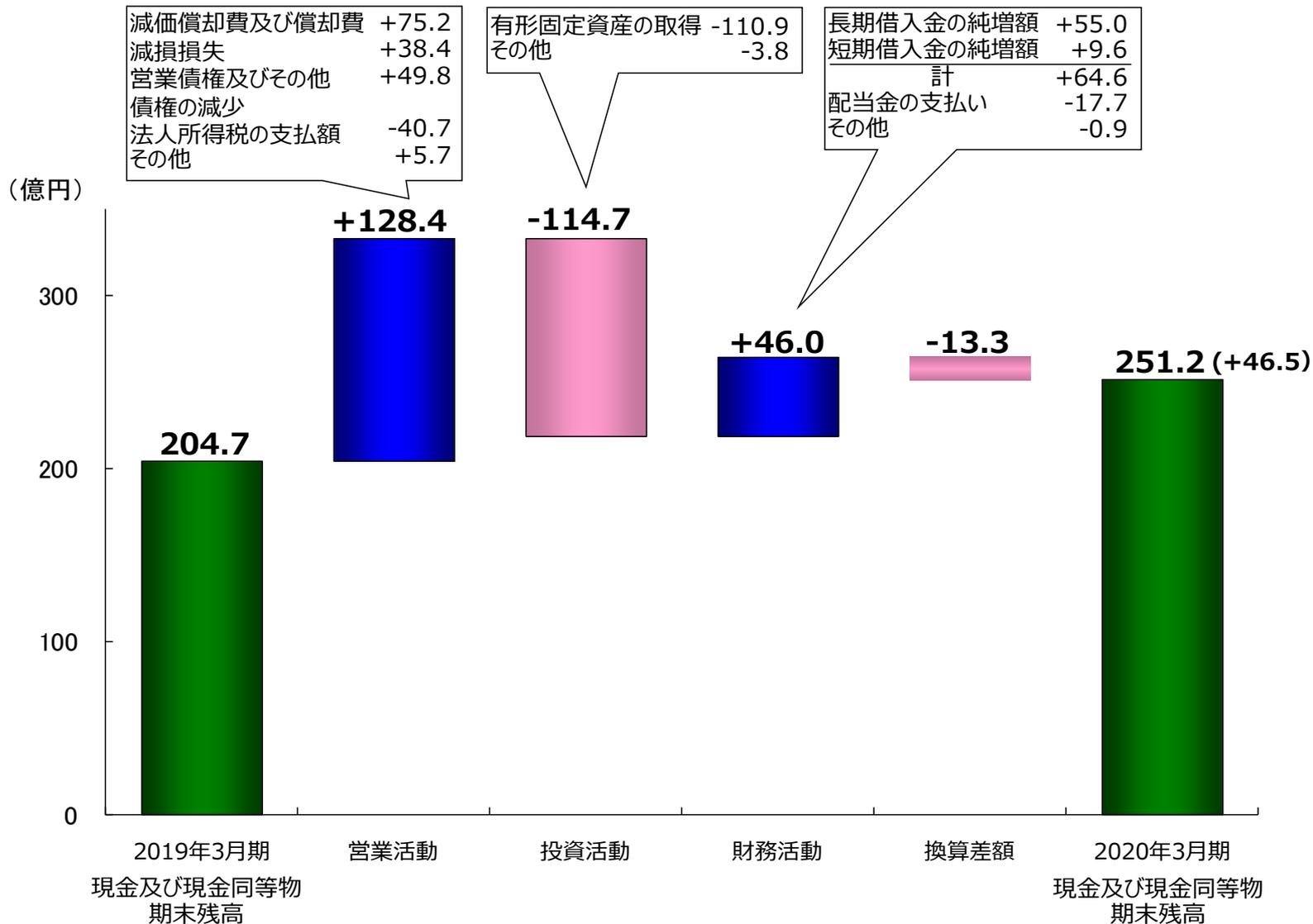
(単位:億円)

(単位:億円)

(単位:億円)

(単位:億円)





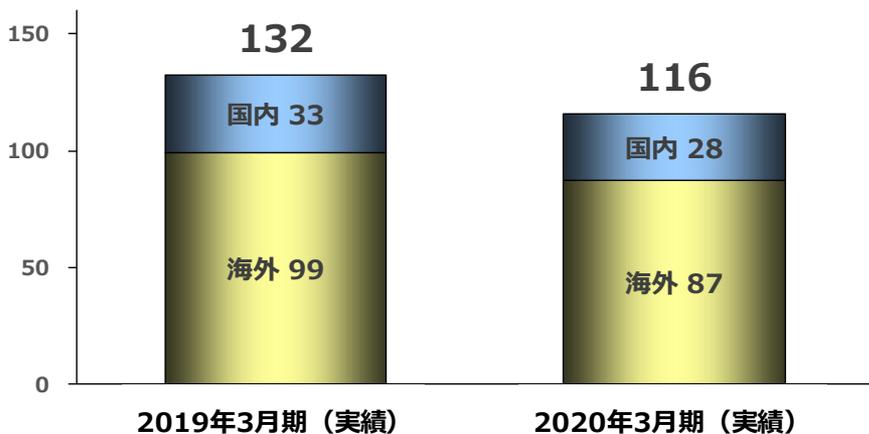
2020年3月期 連結財政状態計算書

	2019年3月	2020年3月	増減	コメント
資産合計	1,188億円	1,172億円	-16億円	営業債権及びその他の債権の減少 -60億円 現金及び現金同等物の増加 +46億円 その他の金融資産の増加 +27億円 その他流動資産の減少 -14億円
負債合計	514億円	563億円	+50億円	借入金の増加 +63億円 その他の流動負債の減少 -24億円 営業債務及びその他の債務の減少 -20億円
親会社持分	532億円	474億円	-58億円	包括利益 -54億円 配当金の支払 -4億円
非支配持分	143億円	135億円	-8億円	包括利益 +6億円 配当金の支払 -14億円
資本合計	675億円	609億円	-66億円	—————
負債及び資本合計	1,188億円	1,172億円	-16億円	—————
有利子負債残高	138億円	209億円	+71億円	日本 +106億円 米州 -44億円 IFRS16号適用影響 +8億円
親会社所有者帰属持分比率	44.7%	40.4%	-4.3P	—————
有利子負債依存度	11.6%	17.8%	+6.2P	—————
1株当たり親会社所有者帰属持分	2,214円	1,973円	-241円	—————

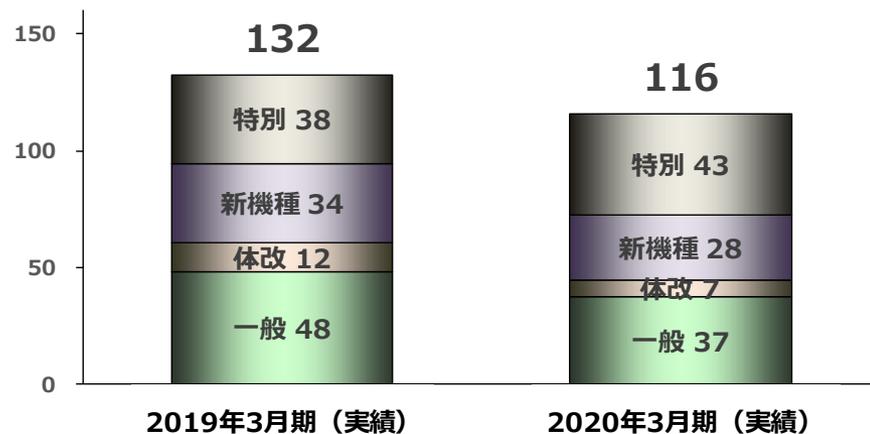
2020年3月期 連結投資実績

単位：億円

【国内/海外区分】



【目的区分】



【投資の内訳】

	2019年3月期 (実績)		2020年3月期 (実績)	
	国内	海外	国内	海外
特別	2	35	5	38
新機種	12	23	8	20
体改	2	10	1	6
一般	17	31	14	23
計	33	99	28	87
合計	132		116	

【主な投資内容】

目的区分	地域	内容	金額
特別	米州	大型設備更新投資	19
	中国	能力拡充投資	8
	アジア	能力拡充投資	12
新機種	日本	二輪新機種投資	5
	米州	四輪新機種投資	6
	中国	四輪新機種投資	7
	アジア	二輪新機種投資	6
体改 一般	日本	更新投資	9
		開発投資	4
	米州	更新投資	5
	アジア	更新投資	12
その他			23
合計			116

【配当に関する基本方針】

長期的な視野に立ち、今後の資金需要や連結業績を考慮しながら実施し、内部留保金については、将来の事業展開に充て更なる業績の向上を図ると共に財務体質の強化に努める。

	2019年3月期	2020年3月期	2021年3月期 (予定)	前年度比 (増減)
中間配当金	8円	8円	—	0円
期末配当金	8円	0円	—	-8円
年間配当金	16円	8円	—	-8円
連結配当性向	-%	-%	-%	-%

※ 2021年3月期は、新型コロナウイルスの感染拡大に伴う影響により、現時点では業績見通しの合理的な算定が困難なため、未定とさせていただきます。

2021年3月期の連結業績予想及び配当予想については新型コロナウイルスの感染拡大に伴う影響を現時点において合理的に算定することが困難なことから未定としております。今後、連結業績予想の算定が可能となった時点で開示する予定であります。

- 決算説明
- **生産体質強化の方向性**
- 新型コロナウイルスへの対応について

生産改革

現状の生産規模でも確実に収益を上げる 筋肉質な生産体質へ

- 徹底した原価改善施策の実行
- グローバル全拠点高位平準化 など



事業の盤石化

－ 日本 －

- ・ 国内生産の収益体質向上
- ・ 海外事業健全化による日本への還元

－ 米州 －

- ・ 拠点自立化と品質基盤の立て直し
- ・ 原価構造見直しによる収益体質の改善

－ 中国 －

- ・ 客先生産の拡大に追従した安定成長の継続

－ アジア －

- ・ 販路拡大による設備負荷率の向上

強化施策

原点に立ち返り、品質の基礎体力を強化

- ・ 品質を守れる**製品仕様**の構築
- ・ **源流品質改善**のできる人材の育成
- ・ 拠点**品質保証体制**の強化

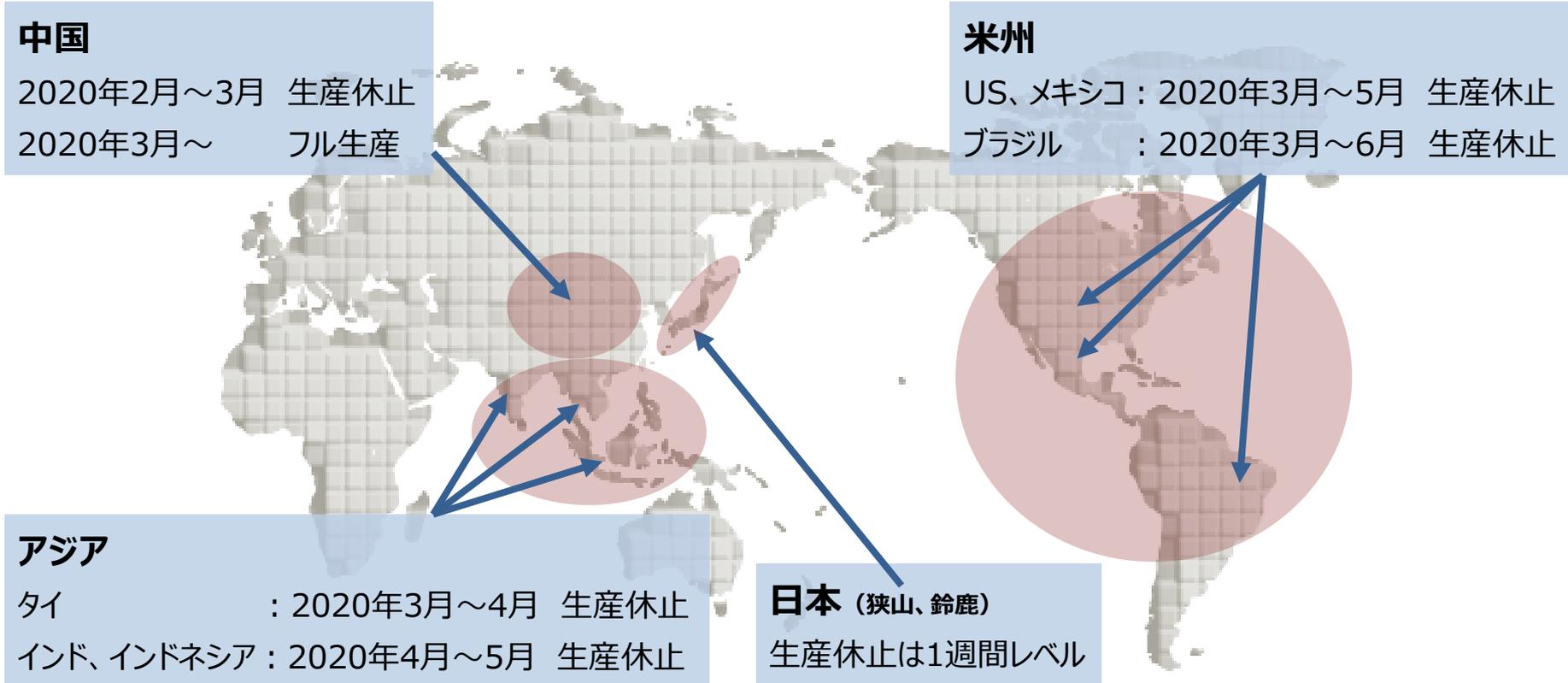
課題

- ・ 源流での品質つくり込み
- ・ 品質保証体制構築

急激なグローバル展開 ⇒ **人材育成の遅れ**が発生

- ・ ローカルアソシエイトの急速な入れ替わり
- ・ マザーレス立上げによるノウハウ伝授の遅れ

- 決算説明
- 生産体質強化の方向性
- **新型コロナウイルスへの対応について**



サプライチェーン調整対応例

1月	2月	3月	4月	5月
武漢製の一部部品	中山製・日本製への代替検討		一部のUS向けサンルーフを武漢製から日本製へ (以降、解消)	
		フィリピン製の一部部品	中国製への代替検討 (のち、解消)	
		メキシコ製の一部部品	日本製への代替検討 (のち、解消)	

■ 全社対策本部の設置を検討する主なリスク事象

パンデミック	取引先	重大品質問題	ITトラブル
争議・テロ	法令違反	環境トラブル	海外拠点トラブル

■ 新型コロナウイルスの感染拡大防止に向けた主な取り組み

- ✓ 時差勤務・輪番制勤務の推進
- ✓ 生産ラインおよびスタッフ職場におけるソーシャルディスタンスの確保
- ✓ 原則在宅勤務
- ✓ 会議の禁止・中止・延期
… ビデオ会議・電話会議優先
- ✓ 国内外出張の原則禁止
- ✓ 時差通勤・自動車通勤の推進

など



迅速な判断により事業影響を最小限に抑え、安定した製品供給を継続する

